

# 歓喜講

歓喜講は、昭和二十年の東京大空襲によって大きな被害を受けた当山の復興を願い、信徒同士のつながりを深めるとともに、聖天様とのご縁をさらに広げるために始められた行事です。今日まで多くの皆様に支えられながら、毎年執り行われております。

法要では聖天様への感謝とともに、皆様のご家族の安寧や日々の暮らしが穏やかに過ごせますよう、ご祈念いたします。

お申し込みの方には、お名前を記したお札とお神酒をお授けいたします。ぜひこの機会にお申し込みいただき、聖天様とのご縁を深めていただければと思います。 講金 3,000 円也：寺務所にて受付中

## 歓喜講特別講演会

法要終了後、正午頃より信徒会館大広間にて大正大学教授、木内堯大先生をお招きし、「欲との上手な付き合い方」と題してご講演いただきます。参加費はございませんので、講にお申込みの方はもちろん、どなた様でもお気軽にご参加ください。



木内堯大師

## 「二利双修」

本龍院執事 深谷昌広

例えば比叡山延暦寺を開かれた伝教大師最澄様は、『山家学生式』の中で「己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」(忘己利他)とおっしゃっています。また曹洞宗の開祖である道元禪師も『涅槃経』の「自未得度先度他」(自分が最後になるとも他人を先に悟りを得させる)という言葉을上げています。

阿弥陀様はまだ菩薩の修行をしていた時「念仏をする者を必ず極楽浄土へ生まれさせ、成仏させることが出来るまでは、仏にならない」と誓っています。

このように諸菩薩や高僧たちは、その修行として自分の事より他人の幸せを優先的に考えます。仏教の教えに慣れ親しんだ私たち日本人にとって実に模範的な生き方です。

そうはいっても、凡夫の私たちは日々さまざまな悩みや苦しみを抱え、自分の事で神仏に「何とか助けてください」とお参りします。現実では自分の幸せを捨て他人のために生きるとは、なかなか難しいことです。

菩薩行とは全く反対に自分の利益ばかり考えて、他人を蹴落としてでも自分だけ幸せになろうとするのも考えものです。まるで地獄の亡者のように自分の利益に執着をする姿から、仏教ではこのような者たちを「我利我利亡者」といいます。

ところで他の寺院からいただく手紙の時候の挨拶に「皆様、二利双修のご精励の事とお慶び申し上げます」とはじまるものがあります。本来は「二利双修」とは自分の悟りを求め修行する「自利」と、他人を仏道に導く「利他」の両方を修するという意味です。しかしこの二利を、自分の幸せを願う事と、他人の幸せの為に行う行為としてとらえてみるのも良いと思います。

たとえば聖天様に自分の商売繁盛をお願いしてご利益を得たとします。それをすべて我が物と考えれば、まさに我利我利亡者となりかねません。しかし様々なご縁に感謝して、他を利することを実行すれば立派な利他行です。自分自身の幸せを求めながらも他人への思いやりや手助けをする“二利双修”を心がけたいものです。

### 朝まいり会

10月1日～7日 午前8時～8時半 会費:500円也  
皆様と一緒に「大聖歓喜天礼拝作法」を誦読いたします。毎日参加されなくても1週間のうちで、ご都合のよろしい日にご参加ください。

### 写経の会

10月11日(日) 午前10時、午後1時 会費:500円也  
お経を一文字一文字丁寧に写すことにより仏様の功德をいただけます。始めてご参加される方は開始15分前にお越しください。

### 日曜勤行

10月11日(日) 午前9時 参加費:無料  
初心の方も気軽に参加いただけるお勤めの会です。

### 合同大般若法要

10月25日(日) 午前11時 法要料:5,000円也  
皆さんとご一緒にお上げする御礼の法要です。

### 坐禅の会

10月24日(土) 午前9時半～10時半  
参加費:500円也 定員:45名  
僧侶より説明を受けながら坐禅の修行を体験できます。足の悪い方は椅子でのご参加もできます。

ライブ配信のご案内 | 御縁日法要・合同大般若法要のライブ配信を行っております。



皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。  
ご意見やご質問は [ityou@matsuchiyama.jp](mailto:ityou@matsuchiyama.jp) までメールをお送りください。





## お子さまの 健やかな成長を願う 七五三参り

秋の訪れとともに、当山では七五三参りを受け付けております。(十月～十一月・要予約)  
七五三は、三歳・五歳・七歳という成長の節目に、これまでの成長を神仙に感謝し、これからの健やかな成長を願う伝統行事です。一般には女の子が三歳と七歳、男の子が五歳でお祝いしますが、地域やご家庭によっては、三歳・五歳・七歳すべてでお祝いすることもあります。ご祈願はご家族ごとに本堂にて行い、行者がお子さまに直接お加持をいたします。また、お子さまのお名前を記したお守りとお供物をお授けいたします。  
土・日曜日はお申し込みが集中する場合がございますので、ご希望の方はお早めに寺務所へお申し込みください。

## 熊本地震義援金

寺務所内に設置しておりました熊本地震義援金箱に、多くの皆様から温かいご支援をお寄せいただき、**151,255円**の義援金が集まりました。お預かりした義援金は寄付させていただきました。皆様のご厚志に心より御礼申し上げます。

## 世話人往来

写経の会の新たな世話人として、山下智世美様、岩谷妙子様が任命されました。今後とも写経の会の運営にご尽力いただきます。

## お散歩会のご案内

11月21日(土)、待乳山お散歩会を開催いたします。今回は寛永寺へお参りし、弁天堂にも足を運ぶ予定です。  
詳しい内容は当山ホームページにてお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしております。

## ご報告

### 「灯明講」

8月20日(木)、灯明講大般若法要を執行いたしました。法要に先立ち、当山世話人による献灯の儀が行われ、御宝前に灯明をお供えいたしました。灯明の明かりとともに、聖天様への感謝を込めて法要を執り行いました。  
また法要終了後に信徒会館大広間において住職の法話がありました。今月は灯明講にちなんでお釈迦様の「法灯明、自灯明」をテーマにお話しました。



### 「関東大震災回向法要」

9月1日(火)1923年に発生した関東大震災でお亡くなりになられた方のご回向を聖天公園の石碑の前にて執行いたしました。

### 「朝まいり正五九大般若法要・斎食」

9月7日(月)、朝まいり会の正五九大般若法要を執行いたしました。近年、朝まいり会への参加者も増えており、大勢の皆様が一心にお経をお唱えしました。皆様の声の一つになったお勤めは、大変力強く、清々しいものとなりました。また、お斎食も行われ、食事(じきじ)作法に則って、おかゆをいただきました。静かな雰囲気の中で食事をいただくことで、普段の食事とはまた違った心持ちで、食べ物への感謝をあらためて感じる機会となりました。  
朝まいり会では、会員の皆様を対象としたさまざまな行事も行っております。ご興味のある方は、ぜひご入会をご検討ください。



## お宮参り



8/4(火) 川連時ちゃん

8月4日(火)御宝前にてお宮参りを執り行いました。行者より無病息災のお加持を授かり、尊天様のご加護のもと、健やかに成長されますようご祈念いたしました。

## 祈祷料

別座祈祷 壹万二千元(一週間)

浴油祈祷 四千元(一週間)

華水供 六百元(一日)

## 法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。

### 百味供養 法要料 八万円

沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすることで、尊天さまに御礼の供養をいたします。

### 大般若法要 法要料 五万円

所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

### 自動車加持 法要料 壹万円

当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

## 実りの秋に考える「いただきます」

泉水堯有

### 用語

### コラム

「実りの秋」「食欲の秋」といわれるように、秋はさまざまな食べ物が旬を迎える季節です。新米や秋の味覚など、食卓が豊になるこの時期、私たちは普段何

気なく口にしている「いただきます」という言葉について、少し考えてみたいと思います。

私たちは食事をする前に、自然と「いただきます」と手を合わせます。この言葉には、食材となった命をいただき、自分自身の命を養わせていただくという、感謝の心を重ねて考えることができます。「あなたの命を私の命に代えさせていただきます」と考えれば、一つの食事も決して当たり前ものではないことに気付かされます。

仏教では、私たちは多くの「恩」によって生かされていると考えます。食事一つをとっても、食材となる命だけでなく、それを育てる人、運ぶ人、調理する人など、数えきれないほどのご縁によって私たちのもとへ届けられています。

天台宗の略食事作法にも「四恩に報い奉らん」という言葉があります。四恩とは、父母、衆生、国王、三宝の恩を意味し、私たちが生きていく上で受けているさまざまな恩を表したものです。日々の食事をいただくこともまた、自分が多くのものに支えられていることを知り、その恩に感謝する機会なのではないでしょうか。

忙しい日々の中では、食事を済ませることだけに気を取られてしまうこともあります。しかし、食事の前に「いただきます」と手を合わせるほんの一瞬、食べ物となった命や、そこに至るまでの多くのご縁に思いを向けてみる。それだけでも、いつもの食事が少し違って感じられるかもしれません。

実りの秋、食卓に並ぶさまざまな恵みに感謝しながら、「いただきます」の一言に込められた恩を、あらためて感じてみてはいかがでしょうか。

